私の心を救ってくれた憧れの先生たち

岐阜市立加納中学校　3年
小寺 莉央（こでら りお）

12 月 30 日、私は家族で交通事故に遭いました。家族全員怪我をし、私自身も左腕を骨折し、肺挫傷にもなり、1週間ほどの入院を余儀なくされました。配慮等は必要でしたが、すぐに学校に行ける体にはなっていました。しかし私は学校に行けませんでした。事故に遭ったあの時の衝撃、光景。そういったものが私の中に押し寄せてきて、「学校に行こう」という前向きな感情を押しつぶしていきました。外に出るのが怖い。学校には行きたくない。そういった思いは募り募って、いつしか何も考えたくなくなり、とても学校に行く気になれなかった私は、ついに休み続けるようになっていきました。家にいてもボーっとする毎日で、自主勉強や宿題も全く手につきませんでした。学校の授業にはついていけそうにもなく、どうすればいいのか、何をすればいいのか、どんどん不安が押し寄せてきて、途方に暮れる日々を過ごすようになりました。

そんな日々が続いていたとき、生徒指導の先生や担任の先生から連絡がありました。「まずはゆっくりでもいいから学校に来られるようにがんばろう。」「莉央さんが来るとみんなも喜ぶし、先生たちも嬉しいよ。」先生たちは温かく、前向きな言葉をかけ続けてくれました。時には学級で話したこと、学校で話題になったことを教えてくれました。どうすれば学校に行けるようになるか、どうしたら不安が軽くなるかを一緒に考えてくれました。そうすることで私の心に寄り添って話してくれたり、話を聞いてくれたりしました。

さらに先生たちは私だけではなく、私の家族に対しても温かい言葉をかけてくれました。両親の悩みについて一緒に考えてくれたり、質問に対しては必ず答えてくれたりしました。こうした先生たちの姿が私にとってはとても大きな活力となりました。私は先生たちの思いを大事にしたいと思い、学校に行くことを決意しました。

学校に行くと全校の先生が話しかけてくれたり、今まで休んでいた分の授業内容を教えてくれたりしました。どんどん「楽しい。」「明日も来たい。」という気持ちは膨らんでいきました。そういった日々が積み重なり、今では学校を休むことなく、元気に楽しく行けるようになりました。

私はこのときの先生たちの姿を見て、とても素晴らしくて、かっこいいなと思いました。私も先生たちのようにかっこよくなりたい。そう思い、私は係活動を通して、仕事をただ自分のためにするのではなく、仲間からの相談を受けたら、しっかりと相談に乗れるように、話を親身に聞いたり、相手の立場を理解してあげたりすることを心がけています。仲間の悩みが解決する最後まで一緒に考えていきたいです。きっと以前の私ならすぐに諦めていたかもしれません。でも、私が学校に来ることを期待してくれた先生たち、私に勉強を教えてくれた仲間、学校に行こうと決めたとき、背中を押してくれた両親のためにも頑張ろうと思います。

私にできること、今はこれだけしかありません。自分のためにやっていることが多いです。だけど、今の積み重ねが未来につながっていきます。そう思うと今を大事に生きようと思います。将来誰かの力になっているそんなかっこいい大人に私はなりたいです。